



ジユネーブ便り 第9回

インダストリアル本部造船・船舶解撤
ICT・電機・電子部門担当部長

松崎 寛

スイスフラン高によるスイス労働者への影響 〜スイス労働組合の見解と活動とは〜

「スイスフランの対ユーロ相場の上
限を撤廃する。」今年1月15日にスイ
ス国立銀行(SNB)が突如発表した
この金融政策の転換は、世界の金融
市場に衝撃と混乱をもたらしました。
2011年からSNBは1ユーロ＝
1・2スイスフランを上限に無制限
介入を続けてきましたが、同発表直
後には1ユーロ＝1・1スイスフランを
大きく割り込み1夜にして20%以上
もスイスフラン通貨の価値が暴騰し
たのです。(2月2日時点では、1ユー
ロ＝1・05スイスフラン)翌日か
ら私の近辺も騒がしくなり、近所
ではスイスフラン貯金者がここぞとば
かりにユーロ紙幣を引き出したため、
ATMのユーロ取引は停止状態、週
末はユーロ紙幣を携えて国境を越え
てフランス圏に買い物に行く人々の

長蛇の車列とレジ待ち。現在も近所
のスーパーやショッピングセンター
は閑古鳥が鳴いています。360度
ユーロ経済圏に囲まれながら独自の
通貨政策を貫くスイス国民の生活防
衛術を日々目の当たりにしています。
しかしこのスイスフラン高、ユー
ロ圏に燃る信用不安もあいまって、
スイス政府やSNBは有効な対策を
持つておらず、数カ月続くのか、あ
るいは数年先まで続くのか、現時
点ではまったく見通しができない状
況となっています。スイスの主要貿易
相手国は、EU諸国であり、特に機
械、電子機器、化学製品3品目の輸
出高は総輸出高の5割以上を占めて
います。このフラン高の影響は早速
深刻化しつつあり、スイス機械・電
機工業会などは企業の存続や雇用へ
の影響は計り知れないと警告してい
ます。本稿では、こうした状況をう

けてスイスの労働組合はどのような
見解を示し、影響がはじめている組
合員や労働者に対してどのような対
処しているのか、その様子を報告し
たいと思います。
**スイス最大の産業別労働組合
「UNIA」の見解**
建設、製造業、サービス産業などの
労働者が集結するスイス最大の産業
別労働組合であるUNIAは、SN
Bの通貨無制限介入直後に声明を発
表し、スイス国民と労働者にとってど
のような影響があるか、次のように見
解を示しています(写真1)。見解を
要約すると、
●スイスでの生活コストの上昇…近
隣諸国に対して一夜にして20%以上の
生活コストが上昇した。企業や経営者
に対しては減税が行われるだろうが、
ツケは労働者に回ってくる。(企業業績

の悪化により)取り組み中の男女賃金
格差は正が停滞する事態になり得る。
●賃金カット圧力や賃金ダンピング
への懸念…フラン高がデフレ経済の引
き金となれば、賃金への悪影響が懸



写真1: 今回のスイスフラン高に対する見解を示す UNIA のホームページ

念される事態となる。また、国境近くの近隣諸国の労働コストがスイスに比較して劇的に低下したため、多くの仕事が入った国境地域へ移動してしまふ。これは賃金ダンピングにはかならない。

●労働時間への影響・現在ではスイスの労働時間はヨーロッパの中でも最長レベルに達している。賃金への影響をさけるため、更なる長時間労働に踏み切れば、新規雇用は期待できず、結果として失業率を上昇させる恐れがある。

●SNBは責任を自覚すべし・我々は、ユーロ11・3スイスフランがスイス経済や国民生活にとって妥当であると考えられる。SNBは国民生活に安定をもたらす金融政策を実行すべき。(過去には、2007年10月にはユーロ11・68スイスフランで推移し、2008年経済危機直後にユーロ11・05スイスフランにまで高騰した影響で、企業活動や雇用に大打撃を受けスイス経済は混乱。そのため、SNBが通貨安定策としてユーロ11・2スイスフランを上限に無制限介入を実施してきた背景がある。)

円高不況を経験してきた日本からみても共感する部分が多いと思います。が、やはりドイツ、フランス、イタリアなど、スイスの共通言語を使用する

国境付近の国々にとっては、ユーロ安の今こそスイスの仕事を受注する絶好のチャンスとなっています。一定の専門的スキルや高度熟練技術・技能者仕事でも脅威に晒されている状況の中、どのように組合員の雇用を守っていくのが、スイスの労働組合は難しい対応を迫られているのです。

現れはじめた労働者への影響とスイス労働組合の対応

当初、専門家の見方では「SNBの行動が唐突だったことによる一時的な混乱である可能性が高い。スイスの製造業は極めて高付加価値型であり、スイスフラン高に対する耐性を持っていきます。」とする意見が大半でした。しかし、すでに現実にはフラン高の影響は賃金・労働条件や雇用に現れはじめています。

UNIAの2月4日付け機関紙では、次のような見出しが紙面を占めていました(写真2)。「スイスフラン高・組合は対応に追われる。」ラ・シヨウ・ド・フォンの2企業で賃金カットと時間給契約労働者の比率を増やす動き。UNIAは即座に現場労働者の聞き取り調査を開始。ラ・シヨウ・ド・フォンとは、ヌシャテル州第2の都市であり伝統的なスイス高



写真2: ラ・シヨウ・ド・フォンでの活動を紹介するUNIAの2月4日付け機関紙

級時計メーカーの製造工場が集積しているモノづくりの町であり、この「2企業」とは、有名な時計ブランドです。高付加価値輸出産業に従事する労働者においても短期間のうちにいかに急激な為替変動の影響を受けかを物語っています。

UNIAやナショナルセンターのスイス労働総同盟(SGB)が即座にキャンペーン行動を行ったことで、スイス政府は、スイスフラン大きな経済的被害を被った国内企業が従業員を解雇を避け、労働時間の時短を実施する場合、失業保険による補償を請求できるとする政策を1月27日に発表しました。納税者、生活者とし

て被害を被る労働者。その労働者である組合員の賃金・労働条件を守る労働組合としての闘いが激しさを増しています。

さて、インダストリアル加盟費はスイスフラン建て。このスイスフラン高が続けば各国加盟組合からの加盟費納入が難しくなる恐れがあり、財政運営に支障が出る懸念もあります。インダストリアル本部の活動に影響するような事態に発展しないよう、ただひたすらスイスフランが落ち着くことを願って止みません。



松崎 寛 まつざき かん

1998年金属労協に入局。国際局、政策局で主任として産業政策、環境政策の立案をはじめ海外労使紛争防止ツールの作成などに活躍。2010年9月1日から家族同伴でIMF本部(現インダストリアル)に赴任。現在の担当役職は、産業政策・多国籍企業政策グループの造船・船舶解撤/ICT・電機・電子部門担当部長。